



## 体育会本部 山方勇輝委員長一年間を語る



この一年を振り返ると非常に困難の連続でした。就任当初はコロナ禍真ただ中で見通しの見えない現状に不安を覚えました。

そのような状況の中でまず原点に立ち返り、体育会本部とは何のために存在しているのかということ念頭に置き、コロナ禍で思うようにいかない中でも自分たちの立場で何ができるのかを考えていく。それが組織の始まりでした。

オンラインで開催となったリーダーズキャンプから、各団体の課題を聞き出し、新歓の重要性に気づきました。そこで我々は従来の対面とオンラインの両面での新歓を実施しました。様々な制限下において体育会会員の減少が否めない中で何とか踏みとどまることができたと思います。

五月末に開催されるはずだった学内競漕大会は直前に緊急事態宣言が発令され二年連続の中止を余儀なくされてしまいました。しかし、この悔しさをバネに七月の学内運動競技大会では、感染症対策を強化し二年ぶりの開催を大成功に収めることができました。参加者の笑顔と熱い勝負を見て興奮と感動を覚えました。

四大学運動競技大会では正式種目のみではありますが、本学は優勝を勝ち取ることができました。この結果はひとえに困難な状況下でも日々の練習を怠らず、勝利に向け努力してきた体育会団体の皆様のおかげです。

このほかにも、「体育会を盛り上げたい」一心で同じものを身に着けようとして企画された「体育会Tシャツ」は現在多くの方に着用いただいております。無観客で応援できない現状を打開し、みんなで応援しようとした「インスタライブ配信」なども企画しました。

すべては成蹊大学体育会の為、この想いが全団体、体育会会員全員へと伝播していくことをささやかながら願っております。ここまで体育会の発展に寄与してくださいましたOBOGの皆様に深く御礼申し上げますとともに、これからもご支援のほどよろしくお願い致します。

寄稿 第七十一代成蹊大学体育会本部委員長 山方勇輝

## 第72回四大学運動競技会の優勝を弘松四大戦推進局長が報告する

第72回四大学運動競技大会は、コロナ禍で初となる競技開催を行い、見事、成蹊大学が4年振りの優勝を果たしました。



コロナは四大学の間に大きな障壁を作り、一時期は開催も危ぶまれました。しかし、その時成蹊が先陣を切って動けたのは「四大戦を行いたいじゃなくて、行う。今出来る事を全てやり尽くそう。」という強い意志があったからでした。

結果としては、正式種目のみの開催であり理想とは違う形となってしまいました。

しかし、四大学で2年振りに開催できた今大会は、スポーツを通して交流が出来ることの素晴らしさ、そして成蹊の熱い姿勢や組



織の強さを再確認できた大会となりました。来年こそは全競技を実施し、四大学全員で作る四大戦で、総合優勝を果たして欲しい思います。

これまで、体育会活動に力を入れてきた体育会団体の皆様、そしてなによりその環境を支えてくださった学生部の皆様、OBOG会の皆様など、多くのご協力いただいた皆様のおかげで、四大戦の開催そして優勝を果たすことが出来ました。この場をお借りして、心より感謝の気持ちを申し上げます。

最後になりますが、成蹊大学、そして四大学運動競技大会の益々の発展を祈念いたしまして、結びの言葉とさせていただきます。

寄稿 体育会本部四大戦推進局長 弘松 里彩

## 四大学戦と新型コロナ感染対策について



10月22日より24日までの3日間で第72回四大学運動競技大会が成城大学において開催されました。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大により式典のみとなりましたが、今年度は体育会各部による正式種目のみを実施されることとなり、成蹊が学習院を6.5点差でリードして開会式を迎えました。

22日には競泳と女子バドミントンで成蹊が優勝しました。特に競泳競技はコロナ感染予防のための会場分散により、成蹊大学北プールで行われましたが、12月上旬並みという冷たい雨の中

で、管財課のご配慮により加温装置を稼働していただき、選手たちは期待に応えようと奮起しました。大学/学園と学生たちが一体になって出した素晴らしい結果だったと思います。

最終日の24日は女子駅伝でラクロス部1年生により編成された2チームが圧巻の1-2フィニッシュを飾り、学習院の猛追を振り切って優勝しました！

小春日和の絶好の晴天の下、四大学の応援団、チアリーダー、吹奏楽団の華やかな応援合戦もカレッジスポーツの真骨頂として素晴らしいものでした。チアリーダーたちは朝からずっと暑い日差しの中で5時間以上マスクをしたままで吹奏楽研究会とともに一所懸命応援をし続けました。



学園長、学長を始めとする関係者の皆様のご理解により、成蹊は他の3大学より恵まれた練習環境の中で培った力と技を發揮できたことが、この日の結果につながったことを実感しました。特に学生部では昨年からの各競技の特性に応じたコロナ感染対策を各部と膝を詰めて話し合い、リスクを最小限にして活動を見守ってきたことで、大学と学生たちとの信頼関係はいつも以上に深まったのだと思うと、この結果は本当に感慨深いものでした。

また大学では新型コロナウイルス感染対策に関する行動制限について、以下のサイトに掲載された表のレベル1とすることを11/5に発表しました。現在の状況が続けば学生部長の判断により合宿の開催も可となっております。ただし引き続き会食等を伴う会合は禁止となっており、また合宿開催時期に感染が再拡大して行動制限のレベルが高くなってしまうと施設等をキャンセルせざるを得なくなりますのでご注意くださいようよろしくお願いいたします。

⇒ [katsudou.pdf \(seikei.ac.jp\)](https://katsudou.pdf(seikei.ac.jp))

寄稿 学生支援事務室学生部担当課長 熊崎和宏 (84年卒)

## 水泳部水球班に東京オリンピック日本代表をコーチに招聘する

本年度、本学水泳部水球班は悲願の関東学生リーグ戦1部昇格を果たしました。次年度に向け、水球班のより一層の強化をはかるため、2022年1月よりコーチを招聘しましたので、僭越ながらご紹介させていただきます。水球班の取り組んでいる武蔵野市、武蔵野市教育委員会との地域連携事業への参加が縁となり、リオデジャネイロ、東京オリンピック日本代表としてプレイした志水祐介をコーチに迎えることになりました。本学水泳部への加入となりました。2022年1月からは武蔵野市に移住予定です。



[志水祐介氏からのコメント] はじめまして。水球リオデジャネイロオリンピック、東京オリンピックに出場しました志水祐介です。初めに成蹊OBOG会長会の皆様には、オリンピック開催にあたり、沢山のご声援、ご支援に感謝申し上げます。ありがとうございました。

選手を引退し、新たなセカンドキャリアのスタートという事で、成蹊大学体育会水泳部のコーチとして携われることをとても嬉しく思います。

選手が決めた目標「インカレベスト4」を共に目指し、コーチとして全力でサポートしていきます。世界各国のプロチームでの経験を活かし、私にしか伝えることが出来ない事を選手に伝え、各々が将来に繋げてくれるキッカケになればと思います。皆様のご指導、ご声援を頂ければ幸いです。

今後とも宜しくお願い致します。



寄稿 水泳部水球班 監督 加賀美佳秀

## 準硬式野球部 秋季リーグ戦で優勝 3部に昇格する



準硬式野球部は、2021年度秋季リーグ戦四部にて優勝、13年ぶりの三部昇格を致しました。

コロナ禍での新チーム発足後から厳しい道のりが続き、今年度春季リーグ戦では優勝決定戦で都立大学に5×6 サヨナラ負けで、目の前で胴上げを見る悔しい思いもありました。

しかし、上部昇格への執念を燃やして、主将峯部大地のリーダーシップのもと、通常練習の他に練習日以外の自主練習も積み上げて参りました。各自週1000本の素振りをノルマと設定するなど、明確な

数値目標を取り入れるなど工夫して取り組みも致しました。

その結果秋季リーグ戦では都立大に11-1 コールド勝ちと見事に雪辱を果たし、合計4試合でコールド勝ち、個人成績では全試合で先発した三年河合功治が防御率0.53と最優秀投手賞、四年西村達樹が最優秀賞、二年中山翔夢が首位打者を獲得し圧倒的な力で優勝することが出来ました。

OBの皆様のご支援があり、悲願を果たす事が出来たと改めてお礼申し上げます。

来季も三部優勝、そして二部昇格を目指しますので、応援の程宜しくお願い致します。



寄稿 準硬式野球部主務 伊藤新

## ゴルフ部 秋季リーグ戦で男女とも昇格を果たす



コロナ禍の中、21年度のゴルフ部は勧誘に工夫を凝らし、新入部員男子5名、女子1名を迎え、総員31名でスタート。春季リーグ戦では男子は練習不足もありEブロックに降格、女子は他校の好スコアもあり、Eブロック残留となりましたが、ここからコロナ第5波による合宿禁止を始め前代未聞の過酷過ぎる環境下にも関わらず、練習方法を工夫して活動を継続、秋季リーグ戦では男女ともにリーグ昇格を見事果たしてくれました。レギュラー選手が男女共に数多く残り、来年も楽しみなチームです。

OBOG会も様々な制約の中、4月にリモートによる総会を開催、facebookを始めとするSNSをフル活用して、現役新入生やリーグ戦報告などの情報を積極的に活用して発信に努めました。コロナ罹患者の減少を踏まえ、11月13日には十分なコロナ対策を実施の上、OBOG24名、現役8名参加によるコンペを開催し旧交を暖めることができました。

今年度は最低限のOBOG会活動は行うことができましたが、以前のような盛り上がりには欠けたため、引き続き、現役/OBOG関係者全員でSNSを始めとするITの更なる活用を進めていく計画です。現役は学内練習設備の活用など、工夫した練習を開始、新シーズンに向かっていきます。

寄稿 ゴルフ部OBOG会会長 佐鳥浩之

## ラクロス部（女子）の活躍を報告する

ラクロスは男女でルールが異なるスポーツで、男子は全身防具を身に付けるコンタクトスポーツですが、女子はアイガードとマウスピースだけの軽装でボディコンタクトが禁止されており、ラクロス部も男女が別々に活動しています。



女子ラクロス部は部員52名を擁し、女子の団体スポーツでは校内随一の規模を誇っています。関東学生リーグでは1部に所属し、日々鍛錬を重ねています。

コロナ禍での今シーズンは昨年続き変則的な大会形式でしたが強豪の集まる関東1部リーグを堅持、四大戦では全勝優勝を果たしました。

また、ラクロス競技のみならず学内の活動にも積極的に参加し、四大戦

エントリーした2チームが1、2位を独占、四大戦総合優勝に大きく貢献しました。また春の学運(学内運動競技大会)では未踏の「10連覇」を果たしています。

スポーツ推薦がなく、他大も含め大学から競技を始める選手が大半を占めるラクロスは成蹊でも本気で日本一を目指せるスポーツとしてこれからも学内でのプレゼンス向上・そしてラクロス界でも成蹊の名を高められるよう尽力してまいります。

最後発の女子団体競技の体育会として、皆様のご支援の程どうぞ宜しくお願い致します。

寄稿 ラクロス部OBOG会会長 山本壮一郎



## けやき並木のお落ち葉掃除を実施した

11月30日に学園サステナビリティ教育研究センターが主催するけやき循環プロジェクトの一つとして、小学生と大学生と一緒にけやき並木の落ち葉掃除が実施されました。

けやき循環プロジェクトとは、噛み砕いて言えば、武蔵野市の天然記念物であるけやき並木からこの時期に膨大な量が降り積もる落ち葉を掃き集めて、敷地内にある馬場の馬糞などと混ぜて肥料にして、小学生が農園で野菜を育て、育ったサツマイモをけやきの落ち葉で焼いて食べるという、学園創立者 中村春二先生の教育理念の一つ「勤労の実践」を体現するプロジェクトです。



コロナウイルス感染拡大で今回のような大学生と小学生が一緒に行く機会をしばらく作れずにいましたが、やっと実現しました。大学生は久しぶりの実施ということで公募せず、私の判断で体育会のクラブを一本釣りしました。初日はサッカー部と水泳部、以後はラグビーフットボール部と男女ラクロス部に依頼して快諾してもらいました。

小学校の先生によると、子供たちは大学生のお兄さんお姉さんたちと一緒に落ち葉掃除をすることが嬉しくて、朝から皆、落ち着かなかったのだそうです。そしてわずか1時間でしたが、笑顔が絶えることなく、大学生のお兄さんお姉さんたちは子供たちからファーストネームを呼び捨てにされるほど打ち解けて、楽しく、素晴らしいひと時を過ごしました。大学生たちもとても喜んでいました。

小中高大がワンキャンパスで、けやき並木という美しい自然環境に恵まれた成蹊ならではの

本当に成蹊らしい企画でした。この後開催される焼き芋大会にも大学生をご招待いただけるそうです。



寄稿 学生支援事務室学生部担当課長 熊崎和宏

## 関東アメフト連盟の電子チケット販売制度について



成蹊大学が加盟する関東大学アメリカンフットボール連盟はコロナウイルスの影響で開幕が例年より1か月半ほど遅れ、8チームの総当たりで行われるはずのリーグ戦は4チームの総当たりで削減されました。初戦は無観客でしたが、2戦目からは有観客となり、すべてplayground株式会社が提供する「MOALA QR」というシステムを利用した電子チケットでの入場のみとなり、紙のチケットは廃止されました。連盟のHP内のオフィシャルストアでクレジットカードもしくはコンビニ決済でチケットを購入するとQRコードが表示され、顔写真を登録し

て会場の端末に顔とQRコードをかざすと本人確認と検温が行われ、入場可となります。QRコードはスマートフォンで表示しなくてもパソコンなどでプリントアウトしたものを利用できますが、顔写真の登録はスマートフォンでやる必要があり、1アカウント1



チケットのみなので、スマートフォンを持っていない人は家族などの協力を得なければなりません。社会人の「Xリーグ」では全席指定席ではありますが、従来通りの紙のチケットも発行されており、本人確認も行われにくいことに比べると、関東学生連盟の取り組みは個人的には「そこまでやらなくても」という気がしないでもありませんが、できる限りトラブルを避けたいのだと思います。



OBからは「購入の仕方がわからない」という問い合わせも数件ありましたが、大きなトラブルはなく運用されたようでした。

寄稿 アメリカンフットボール部 OBOG 会会長 瀧川 尚己

## 助言委員会の報告

11月29日（月）13時15分より本年度第1回目の助言委員会がZOOM会議にて開催され各学部代表教職員、体育会本部、OBOG会長会の委員11名が参加しました。境学生部長より講習会実施報告並びに予定についての報告があり、体育会OBOG会長会御厨会長からはアンケート結果及び活動報告を行いました。

9月17日に開かれた『メンタルセミナー』では文化系団体からの参加もあり、体育系団体とは違った見方で、参考になったとの意見が出されました。

山方体育本部委員長より、40団体の中では直面している問題点やOBOG会の組織力に違いがあり、各部同士や現役とOBOGによる情報交換を活発にしていきたいとの意見がありました。

寄稿 体育会OBOG会長会 副会長 本間秀雄



## アスリートセミナーが開催されました

本年最後のアスリートセミナーが、12月19日（日）17:00～18:30リモートによる講演として開催されました。講師は、(株)ホープス足立潤哉氏で「リーダーシップについて」と題して行われました。

境部長のあいさつで始まり、100名近い学生とOBOGが熱心に聴講しました。

リーダーシップとは学術的には「心理的に他者に変化をもたらすこと」とされているが時代とともに変化し一つの答えがあるものではない。一昔前のように役職・上下関係ではなく四年生から一年生までが互いに刺激しあい理解を深めていく（シェアードリーダーシップ）が求められているようです。好きな食べ物や音楽が違うように「スポーツに対する価値観は（大切にしているもの）は一人ひとりが違うということ」を認識することが必要。自分を知り、自分を動かし、仲間が動き出すため

にはまず自分を深く知ることも必要です。どのように強くても、常に勝つことはできません。「敗北を受け止める」ことが必要な時もあります。これらを積み重ねリーダーシップが目に見えてくるということのようです。

寄稿 体育会OBOG会長会 副会長 木村明彦

## 事務局から

※今年も一年間新型コロナウイルス感染問題の影響で十分な活動ができませんでしたが、研修会として開催いたしましたアスリートセミナーではリモートによる開催でしたが、毎回100名の聴講者が得られ新しい形式の研修会として定着してきたと感じています。聴講している学生からも積極的な質問も多く寄せられるようになってきています。OBOGの方々も学生がどのような研修を受けているのか参加をしていただくと学生とOBOG間の交流も促進されるものと考えます。

※SMAnewsも皆様のご協力で寄稿いただける原稿も増えてきています。これまでに26のクラブから寄稿を頂いています。体育会OBOG会長連絡協議会には40のクラブが所属していますのですべてのクラブからの寄稿が掲載されるように努力してまいりますのでご協力をお願いいたします。

※一年間SMAnewsへのご協力ありがとうございました。来年こそ学生とも身近に接し、またOBOG間も互いに直接お会いしながら体育会活動を切磋琢磨できる環境を作っていけるよう努力したいものです。皆様におかれましては、年末年始健康で明るいご家庭でお過ごしいただきますよう祈念いたしております。

### Information 重要なお知らせ

#### ■お知らせ

□次号SMAnews29号（1月～3月）は、3月25日頃発行予定です。すべてのクラブから活動状況の報告をお聞きしますのでご協力ください。

掲載責任者 木村明彦